

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392800017		
法人名	社会福祉法人 住田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「かっこう」		
所在地	〒029-2502 岩手県気仙郡住田町下有住字十文字89-2		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0392800017-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して生活できる環境つくりと、相互信頼関係作りのため、利用者の話を充分傾聴するよう心掛けています。利用者も職員も笑顔で過ごせるホームになるよう努力しています。災害にも強い土地柄と恵まれた自然の中で、散歩したり、庭の手入れや野菜をつくったり出来る環境が特徴です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住田町社会福祉協議会が運営するグループホーム「かっこう」は、デイサービスと併設となっており、建物は、住田農協本所を改築したもので、立地的に、地域に広く知られており、上有住・下有住地区の中心地でもある。社会福祉法人全体の運営方針を基に、独自の基本理念を作成した一つ目は、「お互いの信頼関係を第一義とする。二つ目は、「一生懸命と遊び心を大切に。初心を忘れず創意工夫の心を楽しむ」と掲げている。遊び心とは、笑わせること、そして笑ってもらえること、楽しくなる表情を捉えながら、生き生きとした顔が見られるよう一人ひとりの対応を工夫しながら、今年度は外出支援にも力を入れている。冬期間の運動不足にならないよう「マット踏み」を購入し、筋力低下の防止につなげたいと職員相互で連携を図り、よりよいケアサービスを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所から5年目を迎え、人事異動により職員入れ替わりがありますが「かっこう」の「想い」(理念や方針)は理解してもらうようにしています。	理念は昨年、作り上げたものである。職員は、利用者が、どんな時に、何をすると楽しくなる表情をするのか、生き生きとした顔になるかを常に捉えて、笑ってもらえるように(遊び心を持って)接している。毎月の職員会議、連絡ノート、日々の生活の中で話し合いながら、共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は2カ月に1回程度行われる「お茶っこ飲み会」等への参加も定着し、地区の行事にも出かけて楽しんでいます。地区盆踊りも当事業所の駐車場で行われています。	世田米の町の文化祭、下有住中学校の文化祭には、利用者の作品を展示している。「お茶っこのみ会」には、さんまの炭火焼などを実施し、地域の方々にも参加していただいている。近所への招待状は、利用者と一緒に渡した。野菜の差し入れもあり、今後は散歩しながらのゴミ拾いや、一人暮らしの近所の方へ利用者と一緒に草取りなど、互いに喜ぶことをしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	下有住地区の福祉拠点として、馴染みが深くなり、上記にも記載した「お茶っこ飲み会」等へ参加した際に家族の介護にアドバイスしたり、立ち寄ってホームの方々と話して頂くことで、認知症の理解が深まっていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんや老人クラブ、消防団等の方々とも推進委員として参加して頂いているので、夜間想定避難訓練では人手が必要だという認識から積極的に手伝ってもらえるようになった、また利用者さんやご家族も安心感を持たれている。	運営推進会議と、家族会の合同会議が年1回、実施されている。会議では、文化祭の出品の工作等のアイデアが出されたり、住田高校の文化祭の交流は、今後も続けて欲しいという要望もあり、支援に努めたいとしている。訪問歯科も近所の方で受診できない状態の方もいるので、事業所で治療を受けられるよう検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターと役場保健福祉課介護係は運営推進会議に参加していることから、サービス内容や実態は把握していると思われる。また当事業所で役場へ申請や手続きに行った際は、立ち寄って現状を話すなどしている。	運営推進会議の構成員には、市の担当者や包括支援センターの職員が入っており、利用者の暮らしぶり等は把握している。住田町全体のケア会議に出席し、困難ケースについては、話し合うことが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね理解して介護にあたっていると思います。「自分がされて嫌なことは、どなたにもしない」を旨に意識をもって取り組んでいます。徘徊者に対してはセンサーマットや自動ドアの改修等で対応していますが、一番は職員の見守りだと思います。	マニュアルで、年1回の勉強会や、スピーチロック、声掛けの仕方など取り組んでいる。玄関ドアの開閉は、外からはセンサーで自由に入れるが、室内から外へはタッチしないと開かないようになっており、玄関マットもセンサーが付いている。現在、外出傾向もなく落ちついて生活していることから、解除されても良いのではと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、身体的なものだけでなく「ことばの暴力」「年金等の金銭搾取」なども含まれることも話し、利用者は目上の年長者として対応していくように話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協事業の中には、権利を擁護していく事業があるので、日頃の職員研修でも説明されています。また必要と思われる事案は社協担当者につなげて解決できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時は、管理者が行い説明しています。(不在時は主任が行う)。また、年1回の家族会の際に、不確かな部分は再確認を行っています。個人的に行ったほうが良い場合は、その対応をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族で、町内や近隣在住の方は、運営推進会議に参加していただいて、要望等を話していただいています。遠隔地在住のご家族には、帰省・来訪時に意見をうかがうようにしています。	運営推進会議や、家族会、介護計画を立てる際の家族からの要望・意見は、なかなか出されていないのが実情である。	家族から意見等を更に積極的に聞かれるような場面づくりが必要と思われる。家族の各種行事の参加支援が大切であり、きっかけづくり等で運営に反映されるよう望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、出た改善点等は、1か月1回開催される管理者会議で(社協会長・副会長2名・各事業所管理者)で上申していく。また、社協全体の研修会が、年に数回あるので、その際に提案していく機会がある。	月1回の職員会議の中で、話し合われている。業務の見直し(パートの増員、準夜勤、深夜勤者の処遇について)や、エアコンの導入(2台)など改善に向けた取り組みをしている。職員全員で目標達成計画を立てて、着実に実行しながら質の確保に努めている。人事異動については、「かっこう便り」で家族等にお知らせしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記管理者会議で、就労環境等や給与改善等も話しあわれる。各事業所を社協会長や、副会長・役員が訪問することもあるので、職場環境についてもみて頂き、改善したい点は、報告できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協内部研修の開催も行われると同時に、新任職員が先輩から指導を受ける(OJTシステム)また、毎年行われる介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士等への挑戦を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会からの研修や外部研修の機会に、他事業所の職員との交流は図られるが、個別的に他施設の職員と交流する機会も大切にしている。また、新任職員に対しては、町内施設の研修を行っている。(他施設の良さを吸収する)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんは、不安のなか入所されているので、本人の話をよく聞き、安心して過ごせる所だと思えるような声掛け、環境作りをする(おいしい食事・眠れる環境など・本人のペースの把握等)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の在宅での介護不安を十分に聞き、ホーム入所により、安心出来るよう働きかけをしていく。(ホームで過ごしている他の利用者さんの写真等も参考にさせて頂いています)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が望む生活には違いが生じていることも多いが、双方が納得できるサービスは何かを本人・家族・在宅のケアマネ等と話し合い、施設見学や参考となる情報等の提案もしてみる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今まで過ごしてきた生活や得意が活かせるように、出来るところはしていただく。(草取り・畑作り・掃除・縫物・生け花等)。また、地域の伝統行事や、行事食等教えてもらいながら、一緒に家庭の雰囲気を感じながら楽しんでもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所すぐはなおのこと、面会が必要であったりするので、利用者の一番の支えは「家族」であることを確認しながら、職員はそれを支援していく体制をとっていく。(家族からの手紙・電話、本人からの手紙・電話の効果も大きい)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族親戚以外にも以前住んでいた地域の方々の訪問、面会には随時対応している。また、地域の敬老会やサロンへの招待もあり、参加している。時節のお墓参りや買い物への同行等、見知った方との出会いが喜びにもなっている	利用者の馴染みの人や場所の把握については、親戚、同級生、病院に行った際に(会う)知り合いの方、お茶っこの会に来訪された方や民生委員、公民館に行った時の情報などを把握し、職員で共有しながら、支援の継続に努めている。彼岸などの墓参りや、お正月の帰宅等に努め、とても喜んで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの一日の過ごし方を尊重しながらも、一緒にコタツを囲んでのお話や・散歩・ゲーム等無理せず自然な形で過ごせるようにしている。相性でどうしても合わない方には、適度な距離を持ち、職員が上手く調整を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても(他施設入所や死亡による)遠方のご家族も帰省やお墓参りの時に立ち寄ってくださったりする。また、他施設に入所の利用者にも、訪問等を行い、近況把握をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性や従前の暮らし方に違いがある方々の共同生活なので、本人の希望する暮らし方を優先している。本人の得意を見極め、困難な方には、生活の中で可能な活動を継続することで役割をもち、居場所作りに努めている	食事等は、全員で「食すること」にしているが、利用者の希望する時間帯に食べるようにしている。利用者の得意な紙のかご作り、毛糸の手編みなど、それぞれ好きな場所で熱心に作られていた。言葉を発するのが困難な方でも、歌が好きで、上手く歌えることから、その支援に努めている。様々な場面において、職員の創意工夫がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に在宅でサービスを利用していた方が多いので、ご家族や居宅支援事業所のケアマネ、包括支援センターからの情報も得やすい。事前に、本人宅を訪問し把握することも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や気分、前夜の睡眠状態などの情報を引き継ぎながら対応している。天候によっても体調の変化がみられたり、個々に合わせています。職員間の連絡は口頭の他、介護記録・日誌・バイタルチェック表で行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りのミーティングの他、職員会議、連絡ノート等で状態や課題を把握し、ケース検討会議でその問題解決策を考え、プランにも生かしている。担当制にし記録を作成し、その結果をご家族や主治医などにも伝え、指示を伺うこともある。	利用者ごとの担当者がおり、ケース検討会議で本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について話し合った結果を基に、介護計画を作成している。設定期間ごとの見直しはもとより、状態の変化により、臨機応変に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議の中で行われる「ケース検討会議」での話し合いや結果を参考に情報の共有は図られている。その他に連絡ノートの活用も効果的である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の支援に必要と判断したことは実践していると思われる。特に緊急時の受診や救急対応、入院時にご家族がすぐに対応出来ない事もあり、入院用具の準備、ご家族が到着するまでの付き添いなどには、職員の緊急勤務で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自分の暮らしていた地域の祭礼の見学。町内に暮らしても見たこともない地域へのドライブや時節の楽しみ事など地域資源への活用につなげている。住田の良さの発見になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の開業医・歯科医院・県立診療センターとの連携は良好だと思います。毎月1回「さくらんぼ会議」として開業医で開催される連絡会議や歯科医院からの訪問診療、県立高田病院への「ほっとツバキ」システムなどがあります。	殆どの利用者がかかりつけ医(協力医)となっている。通院介助は、家族(3名)が行ったり、都合のつかない時は職員が受診対応をしている。受診結果については、家族等とは電話などで情報を共有している。年2回の「さくらんぼ会議」のメンバーは、医師・包括支援センター・事業所職員、保健福祉課ヘルパー等の参加で、色々なケースの対応の仕方や、インフルエンザなどについて話し合われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護師資格の従業者はおらず、隣接のデイサービスの看護師によるアドバイスや、訪問入浴車が給水で立ち寄った際に、助言や援助をもらうことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当町には入院できる医療機関がなく、多くは県立大船渡病院や高田病院、遠野病院もしくは紹介された医療機関となります。高田病院とは地域連携パスを利用し、情報の交換ができます。その他の病院入院時も情報提供出来るよう、緊急連絡持ち出しファイルを作成しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では医療職員もいないので、終末ケアは行う状況になく、ご家族には入所時に説明をしており、他施設の紹介や在宅での介護等を見据えて、話をしております。社協本体、居宅支援事業所、地域包括支援センターとの連携には取り組んでいます。	看取りについては、入居時に対応出来ない旨を話しているが、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。利用者の状態の変化によって医師の指示や、デイサービスの看護師のアドバイス等で、その都度、実践と勉強を兼ねながら支援に努めている。今後は家族等の要望があれば対応を整えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は急救法の講習会を開催し、今年度も運営推進会議と一緒に開催しました。「AED」が当事業所にあることから、使用方法も含め行い、活用を含め地域への伝達になったと思います。職員も参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3.11の震災を踏まえ、年2回の避難訓練と、町で行う春秋の避難訓練・地域住民と行う夜間想定訓練も行っています。24時間テレビから車両が寄贈され、脱出の際の車両確保もされました。	避難訓練を実施した際には、常に消防署からの注意点(地震の際の安全個所の確認)や、自分たちの反省点(声を大きく出す)を踏まえ、次回に活かしている。地域の協力体制も築かれている。訓練の際には利用者の名簿を渡し避難した人の確認や、見守りなど連携を図りながら支援体制の整備に取り組んでいる。玄関の外にはスロープはあるが、玄関の中にもスロープを設置したいとしている。	実際の夜間訓練は、危険な個所の確認や、足場の違い、景色の違いなど職員自身が、とっさの判断と対応が出来ることを体得することが重要である。夜間の訓練を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務も利用者の尊厳を大切に、言葉かけ等、丁寧な対応を心掛けています。方言も大切に、愛情のある会話で理解にもつなげています。	笑いがあるような生活を心がけ、一人ひとりの思いを尊重し、性格を把握し理解に努めている。例えば、自分が最高年齢になったことで心のケアに努めたり、自分の部屋の前にテーブルを置いて作業するのが居心地が良かったり、DVDで歌を歌って楽しんだり、パズル、ぬり絵などしている。根(こん)を詰め過ぎる方もいるので、息抜きをしていただくなど、職員は常に気配り、目配りをしながら、ありがとうの言葉を忘れず支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努めてご本人の希望に添えるよう努めています。意欲低下で希望のない方や、自己中心の希望の際はうまく引き出せたり、まとまるような働きかけを助言しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の中で多少調整することもあります。一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けています。食事時間等、全員が一緒という時間ももち、リラックスして過ごせるように個々を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は希望に応じて訪問してもらって対応しています。髪の毛の伸び具合に寄っては職員が行くこともあり、髭そり等は声掛けや、季節の衣類の助言等で対応しています。外出時は、洋服選びもアドバイスしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみであり、日々楽しみにしています。出来るところは利用者さんにも手伝ってもらい、一緒に作る楽しみを感じてもらおう。(材料切り・味付け・食器拭き・お茶くみ・ご飯をよそる等)。誕生会や気分転換に外食も楽しんでいます。	地域からの差し入れもあり、食事のメニューは、当日職員が決めている。おやつ等は利用者の要望を聞きながら、団子などを作っている。嗜好調査は特にしていないが、食べている様子を見ながら把握に努めている。機能低下により、お手伝いも少なくなっているが、野菜の皮むき、食器ふき、盛り付けなどやってもらえるよう工夫しながら支援に努めている。利用者と一緒に産直に出かけたり、誕生会の外食なども楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭食を基本に見た目やバランスも重視しています。量や形態も各人や体調に合わせて設定しています。水分補給は昼夜を問わず、工夫して摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で清潔を保てない方には、毎食後援助をしています。義歯の方には就寝前には洗剤を使用し、清潔を保っています。年に1回は訪問歯科のボランティアを受け、不具合がある時は、訪問診療をしていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えの無い方には、排泄パターンの把握でトイレ誘導に努めています。夜間と昼の尿取りパットの変更や、定時の声掛け、誘導によりその時々に合わせて対応を心掛けています。	自立の方が1名いるが、使用後は確認している。言葉の発声の難しい方は、唇の動きを見て支援に努め、排泄表で時間帯を見て誘導に努めている。夜間でも利用者の動き方を観察し、トイレ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量、適宜の運動等は心掛けておりますが、長年の習慣化で主治医から緩下剤の処方がなされている方は指示通りに服薬をしています。常々、水分・運動・食事の大切さを話し、夜間も水分摂取を行い、不足にならないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、本人の希望や体調に合わせて調整して行っています。季節の「菖蒲湯」「ゆず湯」も楽しみの一つです。浴室内の手すりを多くしたことで、安全性の確保が保たれています。	マニュアルに沿って勉強会等を実施している。入浴拒否の方は、シャワー浴や、清拭、足湯等で清潔保持に努めている。男性職員もいるので、利用者の意向を確認して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて、ベット・畳と希望に添い、日中もソファやコタツで過ごしたり、自室で過ごす方と好みに合わせています。冬季は乾燥するので、咳き込みの多い方には加湿器の設置をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診してきたら処方箋を回覧し、全職員が薬の確認をしています。服薬に関しても、セットする職員、服薬確認する職員を別にし、数回確認できるよう見守りも強化しています。確認した職員は確認のサインもし、責任を持って対応するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に変化をいつも持たせるのは難しいものがありますが、誕生会やドライブは楽しみの一つです。いつも作っている箱作りや刺子、雑巾はお客さまへのお土産や、文化祭の出展、学校への寄贈と感謝されることで、張り合い、楽しみにつながっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、地区内の散歩に出かけます。駐車場内の歩行訓練や食料品の買い物への同行は日課になりました。時節のお墓参りもとても喜ばれ、ドライブ、家族と一緒に外泊、デイサービスと一緒にドライブ、季節に合わせた外出等喜んで出かけています。	事業所周辺の散歩や、家に行きたいという方には連れて行ったり、近くにお寺があるので一緒に出かけている。お盆には殆どの方が、家族の協力で帰っている。今年は特に外出支援に力を注ぎ、体調の良い方、車いすの方も一緒に出かけている。デイサービスからバスを借用し、合同でバスハイクに出かけている。冬場は運動不足にならないよう「マット踏み」を購入し、楽しみながら実践できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少のお金は持っており、買い物に出かけた際、仏様に上げる程度の菓子や花、自宅に戻った際のお茶菓子代、冠婚葬祭時の気持ちのお金等、程度に合わせ極一部ですが行われています。誤解を招かないよう、普段はあまり現金の使用はありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時や、取り次いで話することもあります。手紙はあまり書ける方が少なくなったり、書きたがらない方が増え、書く機会が減りました。一言メッセージでかっこうだよりと一緒に家族に送る方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは十分な広さがあり、思い思いにくつろいでいます。季節の飾りつけを一緒に行ったり、動きやすい空間や物の配置など工夫しています。今年度はエアコンを取り付けて貰い、温度調整も可能となりました。座位出来る場所も増え、花や外を眺めたり、好みの場所で自由にくつろいでもらっています。	玄関には、休みどころが設置してあり、きれいに整理、整頓されている。それぞれの趣味が活かされるよう、個人のテーブルや、ミニテーブル(2~3人用)や中央には大きなソファとテーブルがある。畳の小上がりには炬燵があり、自由に休まれるように設置されている。壁いっぱい毛糸で作ったはり絵(動物、花など)や利用者の作品(習字など)が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の座位する場所が固定しつつあり、気の合う仲間とゆったりとくつろげる場所となっています。デイサービスからくる利用者さんとの交流の場ともなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳やフローリングと、希望にあわせています。持ち込みは自由ですが、テレビやお位牌程度の持ち込みになっています。また、今年度の家族会で家族写真や思い出の品を持参して頂き、話のきっかけにつながればと思っています。	居室はパネルヒーター、エアコン、ベット、洗面所、衣装かけ、衣装ケース等で利用者それぞれに、布団や、本人、家族(孫、ひ孫)の写真が飾られたり、自由に持ち込まれている。家族の協力を得て利用者の家族の写真(子供が小さいころや、自分が若い頃)を持ってきて頂き、一言メッセージを書いて貰い、利用者はとても喜んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場等解りやすいよう大きな表示を付けています。各部屋の入り口にも解り易く名前を付け、自室の確認と間違わないような工夫をしています。朝の掃除はほとんどの方がホール内や居室と行い、気持ちよく過ごせるようにしています。		